

こんにちはは町会です

号
34

中央区には177の町会・自治会と19の連合町会があり、よりよいまちをつくるために活動しています。同じエリアのいくつかの町会・自治会が集まって活動する連合町会では、一層広域的にまちの課題に向き合えるという強みを生かし、さまざまな取組を実施しています。また、新たに誕生したタワーマンションでは、自治会が結成され、コミュニティ活動が動き出しました。そんな連合町会・自治会の活動を担う方々のまちへの思いをお伝えします。



今回ご紹介する町会・自治会

- 京橋一の部連合町会
- 日本橋七の部連合町会
- パークタワー晴海自治会

■町会・自治会についてのお問合せは…

- 京橋地域 区民部地域振興課 Tel: 03-3546-5337
- 日本橋地域 日本橋特別出張所 Tel: 03-3666-4251
- 月島地域 月島特別出張所 Tel: 03-3531-1151

中央区 町会・自治会ネット

検索

町会・自治会情報は「中央区町会・自治会ネット」▶



思わず立ち止まりたくなる 魅力あるまちに

京橋一の部連合町会 会長 富田 正一さん



富田会長

1960年冬季オリンピックのアイスホッケー日本代表として活躍した富田さん。アイスホッケーの国際連盟の理事も務め世界中の町を見てきたことで「そこで暮らす人・店舗を活かすことこそが町づくり」と学んだと話します。

京橋だけではなく みんながWin

「京橋地区は、江戸の中心地の一つとして古い大店が集った歴史あるエリアです。しかし現在は、東京駅から銀座に向かう通り道という感じになっています。いかにたくさんの人を惹き付け、立ち止

まってもらえるかが私たちの課題です」。八重洲二丁目・京橋一丁目く三丁目の町会のまとめ役である京橋一の部連合町会の富田会長は、祖父の代から続く表装材料などの販売を営む会社の三代目。若い頃、北海道の会社に修行に行き、そこで「商売というものはお客様を喜ばせるためにある。まずは自分のためではなく、周りの人ありきで考え、行動することが基本なのだと教えられました。戻ってからは、自分の店やまちだけではなく、この地域全体が盛り上がるには何をすべきかをずっと考え続けています」。

それが実を結んだ一つが2016年に

開業した「京橋エドグラン」。「50人以上の地元権利者や企業が力を合わせ、約15年かけて計画・建設されました。例えば、地域の方や観光に訪れた人が、歩き疲れた時にいつでも気軽に憩えるオープンな場所を設けるなど、多くの人に愛され役立つパブリックスペースとなるアイデアを取り入れています」。ここには歴史的な建造物や文化財とモダンでお洒落な商業施設などが優しく共存。京橋地域にはギャラリもたくさんあり、アートスクエアとしても集客できる場所に。また、災害時には帰宅困難者の受け入れ機能も備えています。

ご家族に、店舗にも 喜ばれる活動を

「京橋エドグランの大階段では、みんなが楽しめるミュージックイベントも開催されています。人数制限やYouTube配信も取り入れながら、コロナ禍で住民と近隣のショップをみんなで盛り上げていくんですよ」。さらに京橋一の部連合町会では、地域の飲食店やショップなどの魅力をわかりやすく紹介する「京橋マップ」や付けるだけで元気がもたれる「がんばれ！京橋マスク」を制作。また、盆踊りなど地域を盛り上げるさまざまな活動も行っています。

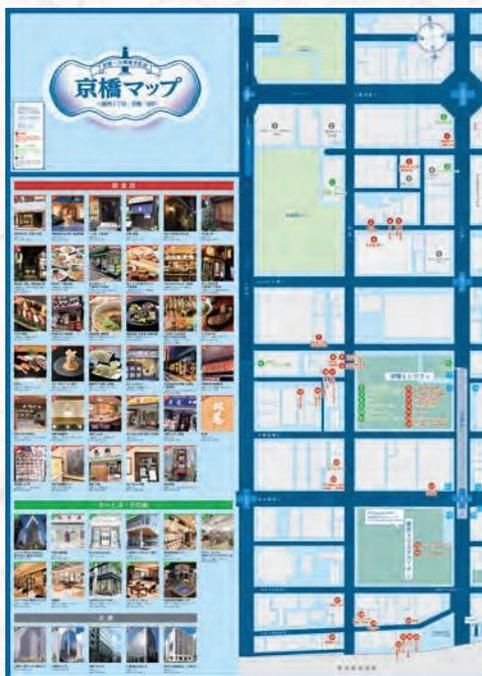
「山王祭が有名ですが、この地域の人はお祭りが大好きです。コロナ禍で神輿を担ぐことはできなくても、笛や太鼓の音楽を流し、祭りは続いているんだよ」と地域のみなさんに伝えていきたいと考えています。こうした活動もみんな



今年も開催が危ぶまれる盆踊り。「せめて笛や太鼓の音楽は流し、長年楽しんできたその雰囲気だけでも味わってほしい」と考えています。

が気持ちを一つにしてこそ実現できます」。これらの活動には、京橋一の部連合町会の若手で結成される「京橋はじめ会」も参加しています。

「若いお父さんが町会に参加してくるよ」と話したら、家族が気持ちよく送り出してくれる雰囲気になっていきたいですね。それには、子どももお年寄りもみんなが喜び活動を考案していかなければなりません。そこに住む人や店舗、この地域で仕事をしている人々を大切に活かせる環境づくりが私たちの仕事。そこからまちの新しい個性も創られていきます。東京駅に向けた顔、中央通りに向けた顔など、これからもそれぞれのまちが特徴のある新しい表情を持てるようにみんなで力を合わせていきたい。簡単なことではありませんが、いまは小さな苗木でも、次の世代へとパトンを繋ぐことで、やがては大樹へと育っていく、私はそう信じています」。



「コロナ禍で厳しい状況にある店や住民に活気を与えられものを創れないだろうか」。そんな提案を受け、はじめ会の若い方を中心に京橋マップとがんばれ京橋マスクを制作しました。

垣根を越えて、 みんなであちおこし

日本橋七の部連合町会／茅場町二・三丁目町会

会長 安西

暉之さん

会長 江本

今野

良雄さん

茅場町二丁目町会 会長

柴

克彦さん

茅場町二・三丁目町会 副会長 坂本町公園未来グリーンクラブ運営委員長

柴

俊明さん



左から柴さん、今野会長、安西会長、江本会長

「150年の歴史を子どもたちにつないでもらいたい」と新しく生まれ変わった阪本小学校の一室に集まりました。

伝統文化を伝え、 イベントも行う公園

日本橋地域には68の町会があり、七つの連合町会が結成されています。その中で兜町町会、茅場町一丁目町会、茅場町二・三丁目町会が一つになって活動しているのが日本橋七の部連合町会です。

みなさんにお会いしたのは、昨年、新校舎の落成式を行った阪本小学校。「ここは第一大学区第一中学区第一番官立小学阪本学校として明治6年に開校した官立小学校で、一番小学と呼ばれました。今日集まった4人も卒業生です」と誇らしげに話します。「この小学校の隣にあ



阪本小学校の改築工事に伴い、隣接の坂本町公園も昨年9月にリニューアルオープン。近隣住民や企業、児童たちがワークショップに参加し、みんなの意見を取り入れた理想の公園を作りました。

の纏や日本銀行の革半纏など、この地域の文化財を公開しています。

る緑豊かな坂本町公園は、地域の人々や阪本小学校の児童たちの声を反映して作られた私たち自慢の公園です。小川が流れ、小さな丘、季節を感じられる草花も植えられ、子どもたちはもちろん、ビジネススマンたちにも都会のオアシスとして愛されています。公園の一角には、ガラス張りでお外から気軽にのぞける『兜町・茅場町まちかど展示館』も設置。4基の神輿や山車、さらに江戸町火消し『百組』

企業も若手も一緒に 活気あるまちに

「公園を訪れる人がいつでも気持ち良く過ごせるように、まちの有志や会社の人たちが清掃や使用ルールの周知活動をボランティアで行っているんです。私たちはこの公園を利用して、春は桜祭り、夏はラジオ体操会・スイカ割り、秋は防災訓練など四季折々でさまざまなイベントも開催していきたいと考えています。昨年11月に防災訓練と合わせて開催した焼き芋大会では、小学校の先生方やPTAのみならず、他地域の青年部の方々と力を合わせ、約240名近くの子どもたちに400本の焼き芋を配り、ゲーム大会も楽しんでもらいました。」

新しい計画は、青年部の発案による、夏の夕べに芝生に寝転がって心地よい風に吹かれ、みんなで音楽を楽しむイベントです。そんなだれもが参加できるイベントをぜひ計画・実現したいとみなさんは話します。

昔の坂本町は、日枝神社の門前町としても賑わってききました。「2年に一度行う日枝神社の本祭りは、この地域一番のイベントです。今年はコロナの影響で齋行できるかまだわかりませんが、毎回、神輿の担ぎ手としてまちの人たちと共に企業から若い人たちが参加してくれています。地域の住民も企業も一緒になって、この地域の伝統を大切に守り、盛り上げてくれているんです。」

兜町には、東京証券取引所があり、茅場町にも証券会社が集い、かつてこの界

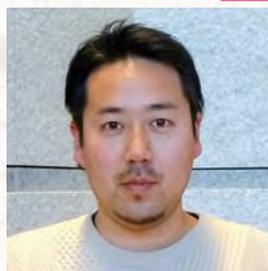


兜町の新しいランドマークとして期待を集めるKABUTO ONE。

「ワンフロアをワンルームで広々と使えるようになっていきますから、大手企業も快適に使えます。いろいろな企業が兜町に集ってくると、人の流れも多くなりまちはより活気づいてくるはず。働くまちとしても、生活するまちとしても、便利な地域だともっと多くの方に知ってほしいですね」。それにはSNSなどの活用も必要だとみなさんは話します。「今の時代にマッチしたまちおこしの方法を提案してくれる若い世代を頼もしく思っています。焼き芋大会の時には、日本橋七の部連合町会以外の若い人たちも多数参加してくれました。どんどん周りの人や企業も巻き込み、この地域全体を牽引して、昔の賑やかさを取り戻してほしいと期待していますよ。」

みんなが、 自らが楽しめる活動を

パークタワー晴海自治会 会長 矢野 智之さん



矢野会長

無理に近所付き合いをしなくても、フットサルコートやキッズルームなどの共有スペースで一緒に過ごすことで、自然にコミュニティが生まれていく。それがこのマンションの良いところです。

とした1,000戸以上の住人のライフスタイルを快適に彩る設備も備えています。

「工作上、銀座などのアクセスに便利な条件の物件を探していました。しかも実家が豊洲の私にとって、ここは生まれ育った地元。どんなところか見学に訪れると、共有施設がとても充実していて、何より他では見えないことに感激し、入居を即決しました。」

2019年に完成したパークタワー晴海は、リゾートホテルを思わせる優雅な外観に加え、美しい木々の中庭、開放的な共有空間など、若い子育て世代を中心に

自ら手を挙げたメンバーで

「小学校から大学までサッカーをやっていた矢野会長は、マンション内の方たちと週1ぐらいのペースでプレイを楽しんでいます。」

「なんでも楽しむことが一番ですよ。」



いまできることを一つずつしっかりと。そんな思いでクリスマスイベントを開催。

自治会を結成すると聞いた時、イベント会社を経営している私の経験を生かし、みんなに喜んでもらえる活動ができればと、自ら会長に名乗り出ました。他の役員も大半が立候補した方ばかりです。みんなでいろんなアイデアを出し合い、アクティブに動きはじめた矢先、コロナの感染がはじまってしまっ。緊急事態宣言、まん延防止等重点措置と次々と規制がかかり、せっかく用意した企画もほとんどお蔵入りになってしまいました。

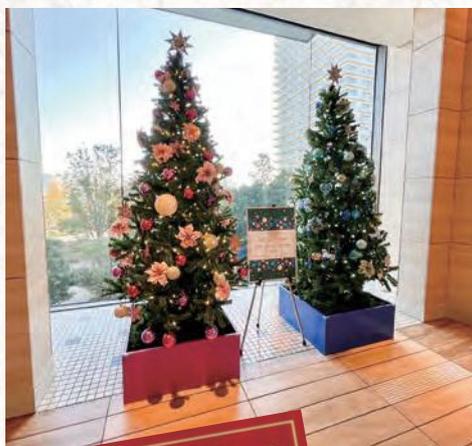
地域の方と、互いの良さを活かしよう

「唯一開催できた昨年のクリスマスイベントでは、森永製菓に特別にお菓子袋を用意してもらい、会員のみなさんにお配りしました。本当はキヨロちゃんを呼んで記念写真を撮影する企画も立てていたのですが、またも感染者数が増えて断念したんです。みんなに楽しんでほしいと考えた企画は実現できず、定例会議では毎週のように変わっていくコロナ感染対策に追われるばかり。役員たちのモチベーションは下がり、1期で辞められた方もいます。」

「地域で行う防災訓練やお祭りなど、外部と連携する行事に関わることも自治会の大切な役割ですが、誕生したばかりのパークタワー晴海自治会には、まだそのノウハウがないため行政とのやり取りや総会での資料作りなどのサポートをコンサルティング会社に依頼しています。昨年で契約が終わるはずでしたが、この

2年間で私たちは具体的な経験を積みこつてできなかったため、もう1年、一部業務のサポートだけお願することにしました。」

さらに矢野会長は、18の町会・自治会で結成される晴海連合町会のミーティングにも参加し、他の経験豊富な会長さんなどから、自治会を運営するためのノウハウなどを学んでいます。「私からはWebやSNSでの情報発信といった得意分野をお教えることができると思うんです。互いの得意なところを活かし、不得意なことは補い合う、そんな連携がもつと必要だと考えています。パークタワー晴海の周りには、他にもマンションがありますので、そんなみなさんとも一緒に活動ができれば楽しくなりますよ。コロナ禍で大変なことはありますが、マイナス面だけ見詰め嘆いていても仕方ありません。自宅で家族と過ごす時間が増えた、定時で通勤しなくても良くなったなど、プラスの面もいろいろあります。これからの自治会の活動も、新しいやり方をみんなでいろいろと模索していこうと、考えているんですよ。」



イベント会社でのノウハウを活かしてチラシなども制作。「管理組合の役員も兼務することで、必要な情報をみなさんにタイムリーに伝えることができます」